

技術戦略専門委員会
第25回会合 議事メモ

1 日時

平成26年6月17日(火) 10:00～11:30

2 場所

内閣府庁舎別館9階 大会議室

3 出席者（敬称略）

（委員長）	後藤 滋樹	早稲田大学理工学術院教授
（委員）	小柳 和子	情報セキュリティ大学院大学名誉教授
	中島 秀之	公立はこだて未来大学学長
	中西 晶	明治大学教授
	名和 利男	株式会社サイバーディフェンス研究所上席分析官
	松原 実穂子	株式会社日立システムズ
	宮川 晋	NTTコミュニケーションズ株式会社 先端IPアーキテクチャセンタ・経営企画部（兼務）担当部長

（事務局）	高見澤 将林	内閣官房副長官補
	藤山 雄治	内閣審議官
	谷脇 康彦	内閣審議官
	徳田 英幸	情報セキュリティ補佐官
	三角 育生	内閣参事官

（オブザーバー）	神成 淳司	内閣官房 政府CIO補佐官
	内閣府	
	総務省	
	文部科学省	
	経済産業省	
	防衛省	

4 議事概要

（1）開会

（2）「情報セキュリティ研究開発戦略（改定版）」（案）意見募集の結果について
事務局より資料4-1,資料4-2,資料5-2に沿って説明。（略）

この後、委員による自由討議が行われた。委員からは以下のような意見が述べられた。

<自由討議>

- リバースエンジニアリングについて、ソフトウェアの脆弱性対策にリバースエンジニアリングを用いたところ、海外で拘束された事例もあることを念頭に置いていただくとよい。
- 生活機器セキュリティの「社会科学的アプローチ」の必要性についての提出意見に対しては、本文の別の箇所で述べていることを説明したほうがよいと考える。
- 「危機管理」や「リスク管理」の用語が混在している印象を受けるので用語の使い方を整理したほうがよい。
- 「ID 連携／認証技術／アクセス制御」の「なりすまし被害にあいにくい認証技術」について、インターネットバンキングでの不正送金や、大規模なパスワードリスト攻撃などの事象が最近問題視されていることを反映し、諸外国で用いられている２段階認証や２要素認証などなりすまし被害にあいにくい認証技術の例示があるとよい。日本では一部の事業者が個別に取り組んでいるが、共通技術があると好ましいと考える。
- 今回の意見公募を通じ、社会科学等の連携すべき他分野にも情報セキュリティ研究開発戦略を幅広く周知することに結び付くとよいと考える。
- 世の中の環境変化や情報セキュリティ技術の社会還元を進捗に伴い、求められる研究開発のかたちも柔軟性が求められる。今後も変わっていくというスタンスで研究開発戦略を世の中に広めていくとよいと考える。これを通じ、日本の情報セキュリティ研究開発予算も米国並みに増額されることを願いたい。
- 「次世代ネットワークセキュリティ」について、システムの構成機器毎でない、システム総体としてのセキュリティも書かれているとよい。特にCPS（Cyber-Physical-System）においては、システムとしてあることを活かしたセキュリティという観点があってもよいと考える。

今回の専門委員会の議論の結果の反映をもって情報セキュリティ研究開発戦略（改定版）の専門委員会案の決定とし、次回の情報セキュリティ政策会議で決定を諮ることが承認された。

(3) 今後のスケジュールについて

事務局より資料 6 に沿って説明。(略)

(4) 委員の任期について

事務局より委員の任期等について説明。

○すでにご案内のとおり、設置規程改定で委員の任期を設定したこともあり、情報セキュリティ研究開発戦略（改定版）の決定を目途に、現委員の任期を終了とさせて頂く。

○現在の委員での会合は今回が最後となるが、情報セキュリティ研究開発戦略（改定版）決定のスケジュールや次期委員の調整等もあり、それまでは委員としてご対応いただきたい。

(5) 閉会（高見澤内閣官房副長官補、谷脇内閣審議官 挨拶）

以 上